

なばり

2013年(平成25年) 8月4日発行

主な内容

- 1・2……いつだって心は生きてる 認知症について
- 3……医療費受給資格証の交付、市営住宅入居者募集
- 4……お盆の診療案内、食生活改善推進員養成講座

発行/名張市企画財政部広報対話室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp ㊦http://www.city.nabari.lg.jp

認知症本人の気持ち

認知症になると記憶や理解力は低下しますが、気持ちはしっかりあるのです。喜びや悲しみ、怒りなどいろいろな感情と心身のバランスで葛藤し、悩んでいます。認知症の人の不安な気持ちを感じ取ってください。

頭の中にモヤがかかったようです。考えようとしても、考えがまとまりません。漢字が分からなくなりました。昔はこんなことなかったのに。自分が自分ではないようです。



申請書の書き方を説明してくれました。でも同じことを何回も何回も尋ねてしまいます。相手の人は、からかっていると思われるでしょう。でも本当に分からないんです。悔しいです。最近、本当に物忘れが多くて困っています。

友人に誘われ、外出する準備をしていました。「ぐずぐずするな、さっさとしろ」ときつく言われました。「認知症やからって、ぼろくそや…」悲しくなります。



物忘れが多くて毎日不安です。でも、家族やヘルパーさんは、私が物忘れをしても、優しく接してくれるので安心です。



いつだって

心は生きている ~体験者の声~



認知症になると何もかもわからなくなってしまう。そう思っていないか。認知症はだれもが発症する可能性がある病気で、行動や心の状態は、まわりの支えがあれば、良くなったり、進行を遅らせたりすることもできます。今号では、市内に住む認知症本人や介護者からお話を聞きました。認知症について、自分たちのこととして考えてみませんか。

問 地域包括支援センター ☎63-7833

認知症介護者の気持ち

認知症の人の介護する家族は、心身ともに大きな負担が掛かります。介護者は戸惑いや混乱、怒り、割り切り、受け入れる気持ちを繰り返しています。そんな介護者を見守り、応援してください。負担が少し軽くなります。

60代女性



主人は、大阪へ勤めるサラリーマンでした。定年を迎え、子どもも独立したので、これからは、夫婦二人で生活する家に建て替えることになりました。家の間取りや設計、段取りをすべて建築会社と一人で進めていた主人が、いよいよ契約となった時点で、同じ話を繰り返し問い合わせをすることが多くなりました。少し様子がおかしいと感じ始めました。主人のプライドを傷つけないよう、病院に連れて行き、軽度のアルツハイマーと診断を受けたのは今から6年前。主人が66歳のときでした。昨日できたことが今日できず、進行はどんどん早くなりました。名前なども忘れて…わたしも限界が来て、まちの保健室へ相談に行きました。話を聞いてもらえたことがうれしくホッとしました。「認知症の人と家族の会」や講演会にも参加するようになりました。食事や排せつなど介護に手が掛かることも、ほかの人の経験談を聞いて、共感したり情報を得たりすることもできました。今、主人は入院しています。これから施設が在宅かどちらで介護した方がいいか悩んでいます。主人は、自分がだれか、ここがどこか分からなくなりましたが、本当はどうしたいのか聞いてみたいです。

◎2ページに続く